

シャブリエの歌曲

— 5つの作品 —

下山 進

Mélodie de CHABRIER

— Cinque pièces —

Susumu SHIMOYAMA

近代フランスの音楽家シャブリエは、明るくユーモアに豊んだ、人情味ある詩を用い12の歌曲を作曲した。即ちシャブリエの歌曲作品は、同時期の作曲家、サン＝サーンス、フォーレ、デュパルク、ショーソン同様、フランス近代歌曲Melodieをドゥビッシー、ラヴェルに継承した一人といえる。

本論では、シャブリエが1890年に作曲した歌曲集「6つのメロディー」より5曲、1. 「小さいあひるの田園詩」、2. 「ふとった七面鳥のバラード」、3. 「蝉」、4. 「陽気な豚の牧歌」、5. 「幸福の島」を選び、テキストと音の融合について、リズム、旋律、和声、形式を分析し、作品の特徴を考察する。あわせて歌唱表現指導をするにあたって、作品の特徴を生かした留意点についても述べる。

I. はじめに

シャブリエ (CHABRIER, Alexis Emmanuel, 1841-94) は、1847年にピアノをザポルタとピタルシュに、1852年にビオロンセロをタルノフスキーに師事する。1857年パリに一家が移り住んでから法律の学位を取得し、1862年に内務省官吏となる。その傍らほぼ独学で音楽の勉強を始め、ピアノをウオルフに、1859年に和声学をスメに、さらに1866年に作曲と対位法をイニャールに師事する。1880年まで内務省官吏を勤めながら作曲活動を続けたが、1880年にはその職を辞し音楽に専念する。また演奏活動として1884年から1885年にラムルー管弦楽団の合唱副指揮者を勤める。一方、フランス近代の芸術黄金期にあつてシャブリエは芸術家に友人が多く、音楽家ダンディ (1851-1931)、デュパルク (1848-1933)、ラムルー (1834-99)、高踏派詩人ヴェルレーヌ (1844-96)、C. マンデス (1841-1909)、また印象派画家マネ (1832-83)、ルノワール (1841-1919)、モネ (1840-1926)、シスレー (1839-1899) などと親交を結びながら音楽活動をする。

シャブリエの作品分野には、歌劇opéra、オペラブッフアopéra bouffe (コミックcomic)

などの劇場音楽、管弦楽orchestra、ピアノpiano、ピアノ連弾pour piano à 4 mains、歌曲mélodieがある。彼の代表作としては、歌劇「星」*L'Etoile* (1877年作、レテリエとヴァンルーによる台本)、ピアノ曲集「10の風変わりな小品」*Dix pièces pittoresques* (1881年作)、管弦楽曲「スペイン」*España* (1883年作)がある。歌曲としては、「旅への誘い」*L'Invitation au voyage* (1870年作、ボードレー詩)、 「不敬な勧告」*Sommation irrespectueuse* (1880年作、ユーゴ詩)、 「愛の信条」*Credo d'amour* (1883年作、シルベストゥル詩)、 「青い瞳」*Tes yeux bleus* (1895年作、ロリナ詩)、 「ジャンヌへの歌」*Chanson pour Jeanne* (1886年作、マンデス詩)、 「6つのメロディー」*Six mélodies* (1890年作)、 「歌曲」*Lied* (1897年作、マンデス詩)の12曲を残した。

本論では、上記の歌曲集「6つのメロディー」より5曲、第1番「小さいあひるの田園詩」、第2番「ふとった七面鳥のバラード」、第3番「蝉」、第4番「陽気な豚の牧歌」、第5番「幸福の島」を選び、テキストと音の融合について、リズム、旋律、和声、形式を分析し、作品の特徴を考察する。あわせて歌唱表現をするにあたって、作品の特徴を生かした指導留意点についても述べる。

II. 歌曲集「6つのメロディー」より5つの歌曲分析

シャブリエのこの歌曲集第1から第4番は、フランスの伝統である、魅力的で滑稽味ある描写的な音楽を用い作曲した。それらはジャヌカン (E. C. Janequin、1472-1559) の多声楽曲「鳥の歌」*Le Chant des Oyseaulx* (1559年作) 他、ラモー (J. Ph. Rameau、1683-1764) のクラヴサン曲「めんどり」*La Poule* (1724年版) 他やクープラン (F. G. Couperin、1688-1733)「蝶々」*Le Papillon* (1713年版) 他の影響を受けた。その作風は後のサン＝サーンス (Ch. C. Saint-Saëns、1835-1921) の管弦楽組曲「動物の謝肉祭」*Le Carnaval des Animaux* (1886年作)、ラヴェル (M. J. Ravel、1875-1937) の歌曲集「博物誌」*Histoires naturelles* (1906年作)、メシアン (O. Messiaen、1908-1992) の管弦楽曲「異国の鳥たち」*Oiseaux exotiques* (1955-56年作) に継承される。

1. 「小さなあひるの田園詩」*Villanelle des petites canards*、R. ジェラルール詩

テキストはジェラルール (R. Gérard、1871-1953) による優しさ*tenderness*のある詩を用いている。

詩の構成は10詩節、1詩節は動きのある奇数3詩句と1詩句で動きのある奇数7音節、脚韻も不安定な奇数mfmである。但し最終詩節は第1、第4詩句を用い4詩句とし脚韻mfmmと安定する。なお第1詩句および3詩句は5度反復される。また詩の内容は明るい母音を多く用いている。

シャブリエの歌曲

詩 1

Ils vont, les petits canards,
Tout au bord de la rivière,
Comme de bons campagnards!

彼らは行くよ、小さなあひるたち、
並んで川のほとりを、
人の善い田舎人のように！

Barboteurs et frétilleurs,
Heureux de troubler l'eau claire,
Ils vont, les petits canards,

歩いたり跳ねたり、
澄んだ水を濁して嬉しそう、
彼らは行くよ、小さなあひるたち、

Ils semblent un peu jobards,
Mais ils sont à leur affaire,
Comme de bons campagnards!

少しおめでたく見えても、
気に入ったことをしている、
人の善い田舎人のように！

以下、第 4 から第 9 詩節省略

Amoureux et nasillards,
Chacun avec sa commère,
Ils vont, les petits canards,
Comme de bons campagnards!

恋して鼻声で、
各々のお喋り女と、
彼らは行くよ、小さなあひるたち、
人の善い田舎人のように！

曲構成は82小節と1/4、速度*Allegro poco mosso*、2/4拍子、へ長調、ABCBCD部のロマンス歌謡形式である。なお声域はsiから1オクターブ上のmiである。

A部8小節第1詩節（第1～第3詩句）は曲冒頭の指示「とても簡潔にそしてとても律動的に」*très simplement et très rythmé*どおりに、終始律動的な8分音符、1音節1音符のシラビック様式である。前奏4小節に続き、単純な4分音符のリズムを効果的に用い、あひるの軽やかではあるがぎこちない歩きかたをユーモアをもって、語りかけるように表現している（譜1）。なお各部の終りには長閑さを暗示させる主和音Faのアルペジオ音型を用い、効果的に詩節をまとめたりあるいは場面転換を印象づけている。

B部14小節は第2、3詩節（第4～第9詩句）、第21小節の弱拍に短打音および第22小節の弱拍（第8詩句第7音節）に*sf*を用い、おどけた印象を効果的にしている。

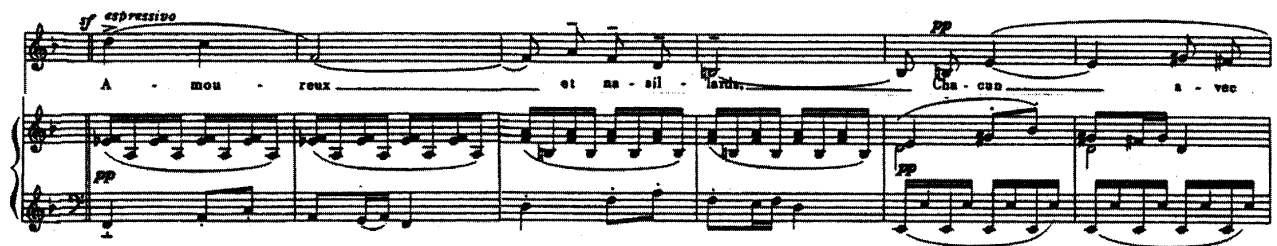
C部14小節は第4、5詩節（第10～第15詩句）、第10、第11、第13詩句は完全8度、完全5度、短6度の幅広い音程を用い、さらに第14詩句は同音réを8分音符のリズムで2小節用い、あひるの特徴ある歩調を表現している。

譜1



B、C部は、第6・7、第8・9詩節を用い歌ピアノ部とも反復する。D部16小節、最終10詩節第28、第29詩句は前詩節と異なり、指示「表現して」*espressivo*に皮肉を込めて歌い(譜2)、第30詩句は*ppp*で3度反復し囁くように語りかけ、第31詩句は指示「終まで段々強くしながら速度を落として」*Allarg. al fine*に、A部の旋律を反復拡張し曲をまとめる。

譜2



歌唱指導の際は、ABC部は基本リズムが8分音符1音節であるので、8分音符にスタッカートやテヌートの記号どおり忠実に再現すること。また子音や母音は明瞭に発音し語りかけるようにする。最終D部前半は歌うように、同部後半は言葉を誇張して声量*f*で表現する。

2. 「ふとった七面鳥のバラード」 *Ballade des gros dindons*、R. ロスタン詩

テキストはロスタン (E. Rostand、1868-1918) による滑稽味*humor*のある詩を用いている。

詩の構成は4詩節、1詩節は8詩句、1詩句は安定した8音節、脚韻は*mfmffmfm*である。なお第8詩句は3度反復される。

詩2

Les gros dindons, à travers champs,
D'un pas solennel et tranquille,
Par les matins, par les couchants,

ふとった七面鳥が、野原を行くよ、
堂々と静々とした足どりで、
朝に、夕に、

シャブリエの歌曲

Bêtement marchent à la file,
Devant la pastoure qui file,
En fredonnant de vieux fredons,
Vont en procession docile
Les gros dindons!

軽々と一列になって歩く、
羊飼いの前を急いで行くよ、
古い歌を口ずさみながら、
従順な行進で行くよ
ふとった七面鳥が！

Ils vous ont l'air de gros marchands
Remplis d'une morgue imbécile,
De baillis rogues et méchants
Vous regardant d'un oeil hostile;
Leur rouge pendeloque oscille;
Ils semblent, parmi les chardons,
Gravement tenir un concile,
Les gros dindons!

彼らはふとった商人のように
愚かで尊大な風に満ちて、
傲慢で意地悪なあくびで
あなたを敵意ある視線で見つめ；
彼らの赤く垂れ下がったとさかが揺れる；
彼らはあざ実の間を通過して、
会議を厳かに開くかのように、
ふとった七面鳥が！

以下、第3、第4詩節省略

曲構成は92小節、速度*Moderato*、2/4-6/8拍子、ヘ長調、前奏4小節と後奏8小節を含むA B 2部形式（2詩節）を4度反復する様式である。なお声域はsiから1オクターブ上のfaである。

前奏は指示*lourdement*と拍ごとのアクセントで、安定したヘ長調の主和音のみで始まる。A部第1詩節は指示*bêtement*、8分音符のテヌートと弱拍の*sf*で語りかける（譜3）。

譜3

Moderato.
Moderato.
f et lourdement.

f batement.
Les gros dindons, à travers champs, D'un pas solennel et tranquille, Par les matins, par

//.
2小節省略

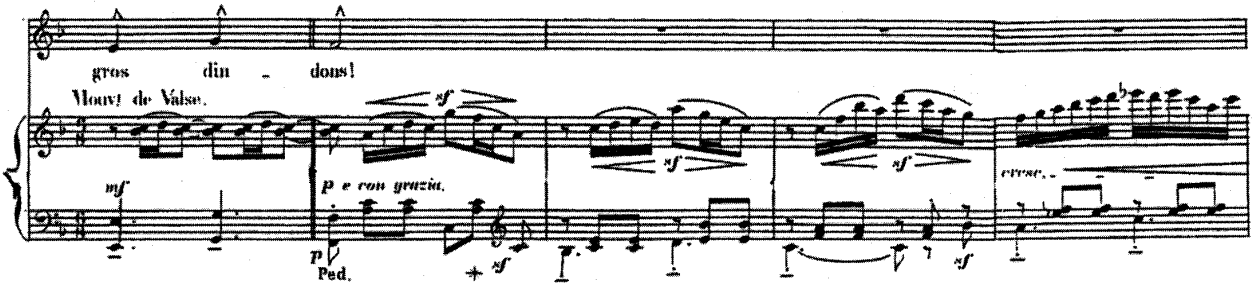
B部第2詩節は指示*armonioso*どおり3連符を強調し、主和音Faと属七和音Do7の結合がのどかな風景を醸し出すと同時に、保続音の属音doが平和な教会の鐘音を暗示する。

さらに第7詩句第8音節の発音 [i] は*pp*で12度音程跳躍を用いファルセットでおどけたように表現される。

間奏6/8拍子、指示*Mouvement de valse*と*e con grazia*は、モーツアルトの「セレナード」

(歌劇「ドンジョバンニ」)の1フレーズを用い、軽快に陽気にA B部と対比している(譜4)。

譜4



歌唱指導の際は、テヌートは8分音符および3連符のリズムが崩れぬよう、長さを正確に保って歌うこと。アクセント音およびsfを発声する場合は、胸隔を良く広げて横隔膜を自由にコントロールできるようにする。また12度音程跳躍のファルセットは、滑らかに力まず発声すること。発音が明瞭になると言葉は効果的に表現される。

3. 「蝉」 *Les Cigales*、R. ジェラルール詩

テキストはジェラルール(R. Gérard、1871-1953)の自然な叙情味*spontaneous lyricism*のある詩を用いている。

詩の構成は9詩節、1詩節は4詩句、1詩句は8音節である。脚韻は3詩節を組み合わせ、第1詩節fmmfと第2詩節mffmの抱擁、第3詩節ffmmの平韻である。なお第3詩節第4詩句は第6、第9詩節第4詩句に反復される。

詩3

Le soleil est droit sur la sente,
L'ombre bleuit sous les figuiers,
Ces cris, au loin multipliés,
C'est Midi, c'est Midi qui chante!

太陽は真直ぐ小道に、
日陰はいちじくの木のしたに、
この叫びは、遠く繰り返す、
正午です、正午ですと歌う!

Sous l'astre qui conduit le chœur,
Les chanteuses dissimulées
Jettent leurs rauques ululées
De quel infatigable cœur,

天体のしたで合唱を指揮する、
隠れた歌い手たちは
彼らの鳴きしゃがれた声を投げる
疲れを知らない心で、

Les cigales, ces bestioles,

蝉たち、これらの昆虫たちは、

シャブリエの歌曲

Ont plus d'âme que les violes,	激しさよりも魂で、
Les cigales, les cigalons	蝉たち、蝉たちよ
Chantent mieux que les violons!	バイオリンより上手に歌う！

以下、第4から第9詩節省略

曲構成は98小節、速度*Très animé*、C拍子、ハ長—イ長調、前奏4小節と後奏4小節をもつABC3部形式（3詩節）を2度反復する様式である。なお声域はdoから1オクターブ上のfaである。

前奏から付加2度のアルペジオ音型をピアノ高音部に用い、指示「非常に陽気に」*Très animé*とともに蝉の鳴き声を描写している。A部第1詩節第1から12詩句は低音部にも同音型を用い、さらに蝉の鳴き声を増している（譜5）。なお蝉の鳴き声を描写する同音型は終始奏される。

譜5

B部第2詩節はA部でMim7—La7/miと曖昧であった調をLa7—Ré7—Sidim7—Do—Rém7—Sol7と連結し主長調Doに確定する。

C部第3詩節はRé7—Mi7—Laと連結し、華やかな響きのある平行長調Laに転調する。間奏は低音部に16分音符の分散和音で、第4音ré#を用いたLa—Fa×dim7/Mi7を4小節トレモロ音型のように用いた後、アルペジオ音型に戻る（譜6）。

第4から第6、第7から第9詩節は第1から第3詩節を反復する。後奏は間奏の16分音符分散和音La—Fa×dim7/Mi7を経て、Fa#m/mi、付加音sol#を用いたSi b7、さらにLa+6をアクセントに用い平行長調Laに転調し不完全終止する。

譜6

歌唱指導の際は、8分音符の*bruit*、*multipliés*、*conduit*、*dissimulées*、*ululées*などの母音 [y] を明確に発音すること。また第4詩句*C'est Midi*は第2、第4の弱拍部ではあるがアクセントの指示があるので狭窄子音 [s] を強調すること。なお幅の広い音程はシャブリエの旋律の一特徴であるので、上行完全5度、長6音程、下降短7度などを正確な音程で歌うと表現が効果的になる。

4. 「陽気な豚の牧歌」 *Pastorale des Cochons roses*、E. ロスタン詩

テキストは前記載「ふとった七面鳥ののバラード」同様ロスタンの詩を用いている。

詩の構成は16詩節、1詩節は4詩句、3詩句が安定した8音節と1詩句が短い4音節、脚韻はmmmfである。

詩4

Le jour s'annonce à l'Orient,
De pourpre se coloriant,
Le doigt du matin souriant
Ouvre les roses!

日が東に告げる、
真紅に染めて、
微笑む朝の指が
ばらの花を開かせる！

Et sous la garde d'un gamin
Qui tient une gaule à la main,
On voit passer sur le chemin
Les cochons roses;

そして手に長い棒を持った
少年の見張りに、
径を通って行く
陽気な豚たち；

Le rose rare au ton charmant
Qu'a l'horizon, en ce moment,
Là-bas, au bord du firmament
On voit s'étendre,

稀なばらは魅力的な音へ
地平線へ、今、
あちら、大空へ
伸びていく、

Ne réjouit pas tant les yeux,
N'est pas si frais et si joyeux
Que celui des cochons soyeux
D'un rose tendre!

何て目を喜ばせ、
何て清々しく、何て楽しげに
何て絹色のような豚たち
優しいばら色で！

以下、第5から第16詩節省略

曲構成は144小節と1/3、速度*Animé*、2/2拍子、ホ長—ホ短—ホ長調、前奏4小節（間奏としても用いられる）を含むAA'BC4部形式（4詩節）を3度反復する様式である。なお声

域はdoから1オクターブ上のmiである。

前奏は指示*Animé*に、ホ短調の平行長調である属和音Si9/miと主和音Miで始まる。Si7-Mi-Mimに結合し同主短調に落ち着き、A部第1詩節第1から4詩句がRé/mi+si-Mim（譜7）、Ré/mi-Mim、豚の鳴き声を暗示させるようなSim7/miを装飾的に結合し主和音Mimに戻る。A'部第2詩節の第5詩句はDo#dim7-Ré7-Sol、第7詩句はMim-SolM7、第8詩句はSi-Mi/fa#-Ré#m/si、第9詩句はSi7-Sim/mi-Mi7-Laに経過的なS進行、下屬調へ転調をする。さらに第10詩句はMi#dim-Fa#9-同7-同9-Siに、第11詩句は半音下降して、色彩豊かなSi7-Mi♭-Fa#dim7/si-Si♭7-Mi♭に一時的な転調する。

譜 7

B部第3詩節はSol-Si7-Sim/mi、Mi#dim-Fa#9-同7-Siと準固有属調に一時転調し、再び半音下降のSi7-Mi♭-Fa#dim7/si-Si♭7-Mi♭に転調する。

C部第4詩節はSolを経てDo#7-Si7-Siaug-Mi、Do×dim7-Si7-Mi（譜8）、Miaug-La-Si9-Miに落ち着く。第5から第8詩節、第9から第12詩節は反復される。第16詩節はDo#m7-Si7-Mi、Do×dim7-Si7-Mi、Miaug-Laと再びS進行し、Si9-Mi-Do#m-Sol#-Do#7-Fa#7-Si9-Miと原調に戻り不完全終止する。

譜 8

歌唱指導の際は、初めの旋律がリズムや音程を変形して再三現われるので語句と一致させイメージ化しておくこと。基本拍は2分音符なので8分音符のリズムは遅れずに歯切れ良く軽やかに発声すること。完全5度、長6度音程跳躍は無理のない発声を心がけること。鼻母音 [ã] [ô] [œ]、狭窄側面子音 [l]、同口蓋子音 [r] の区別を明確に発音すること。

5. 「幸福の島」 *L'île heureuse*、E. ミカエル詩

テキストはミカエル (E. Mikahael、1866-90) の詩を用いている。

詩の構成は6詩節、1詩節は4詩句、1詩節は8音節3詩句と4音節1詩句、脚韻はmmmfである。

詩 5

Dans le golfe aux jardins ombreux,	湾の日陰の庭に
Des couples blonds d'amants heureux	黄金色の一組の幸せな恋人たちは
Ont fleuri les mats langoureux	倦怠の帆船を生き生きさせる
De ta galère,	おまえのガリー船、
Et, caressé de doux été,	また、甘い夏の愛撫、
Notre beau navire enchanté,	僕たちの美しく魅惑的な航海、
Vers des pays de volupté:	快樂の国へ、
Fend l'onde claire!	明るい波を切って!

以下、第3から第6詩節省略

曲構成は80小節と1/3、速度*Animato*生き生きと、3/4拍子、ハ長調、前奏8小節（間奏としても用いられる）を含むA B 2部形式（2詩節）を2度反復する様式である。なお声域はsiから1オクターブ上のfaである。

前奏8小節は指示*molto rubate ed appassionato*、*Poco lento*、*sf*と、さらに3連符のリズム、上下に揺れる旋律とが情熱的な雰囲気表現している。なお3連符のリズムは終始刻まれ心地よい波の揺れを暗示させる。あたかも画家ワトー (J. Watteau、1684-1721) の「シテールへの船出」(第1作1717、第2作1717-19年)を想像させる。

A部第1詩節は指示*con slancio*どおり、第1から3詩句は主和音Doと属七和音Sol7の結合と、さらに第4詩句はシンコペーションの8分音符リズムが、保続音の属音solとが安定感した波の揺れを暗示している(譜9)。第4詩句はRe7-Solと力強く属調に転調する。

譜 9

シャブリエの歌曲

B部第2詩節第5詩句はSol7-Doと第6詩句はLa7-Rém上に大変情熱的で美しい旋律が表現される。第7詩句はRém7-5-Sol、第8詩句は同7-Doと連結し原長調に戻る(譜10)。後奏は前奏8小節を反復し完全終止する。

譜10

歌唱指導の際は、指示*Animato*、*molto rubato ed appassionato*を忘れずに、さらに速さに関する*rit.*、*poco lento*、*a Tempo*がフレーズの変り目に指示されるので、息つぎのタイミングを間違えないこと。第4詩節第14詩句の語*soir*は短6度の幅のある跳躍最高音faをppで歌うと表現に陰影が増し豊かになる。

Ⅲ. おわりに

上記Ⅱの5曲分析から、1. リズムについてはシンコペーションのリズムを用いるが、4分、8分音符、付点8分、付点4分音符などの基本を用い、2. 旋律については基本の順次上行下降を用いるが、5から7度の幅のある音程を用い、3. 和声については7や9の和音、減7の和音、増3和音、付加2度・4度の和音、7の和音の未解決連結を用いるが、まとめの箇所では主属和音で明確に区切りをつけ、4. テキストとの融合については言葉のリズムあるいは抑揚を生かした音または和音を用い、5. 形式については詩節にあわせて2部あるいは3部にまとめていることがわかった。

以上のことから、シャブリエは独学による音楽の勉強にもかかわらず、より自由な表現と機知に豊んだユーモアあふれる作品を残した。即ち彼の12歌曲の特徴はユーモア、軽やかさ、人情味、フランス近代のエスプリ*esprit*、単純さ*simple*を音で十二分に表現し確立したと言える。

参考文献

- R. DELARGE、*CHABRIER*、Minkoff & Lattès、1982
- *EMMANUEL CHABRIER*、R. DORIA、J. GIOVANNETTI、C. ROSTAND、ACCORD 201392、1991
- M. L. RICHER、*The Art of French Song-Three Collections*、La Folia、Vol.2 - No.4、www.

lafolia.com/v2nl/french、2001

- Lieder、*chabrier*、Musica Classical、www.karadar.net/Lieder、2001
- ARNOLD、*CHABRIER*、EMORY UNIVERSITY、19th-Century Music、www.emory.edu/MUSIC/ARNOLD、2001
- Encarta Encyclopedia、*Chabrier*、encarta.msn.com/index、2001
- 「フランス歌曲集」世界大音楽全集、声乐篇、第20卷、音楽之友社、1973.
- CHABRIER、*BALLADE DES GROS DINDONS*、ENOCH & Cie.、E.F. et C. 1699.
- CHABRIER、*CIGALES*、ENOCH & Cie.、E.F. et C. 1696.
- CHABRIER、*PASTORALE des Cochons Roses*、ENOCH & Cie.、E.F. et C. 1714.
- CHABRIER、*LILE HEUREUSE*、ENOCH & Cie.、E.F. et C. 1695.